

七月十四日

昨日のオープンハウス#3のまとめをしなければ、遠くまで、あの雨の中をやって来てくれた八〇名の人達へのフォロワーを、学生達も含めて行い、次の八月三日のプログラムを充実させよう。月に一回位はやれるだろう。十時地下会議。今日は室内の原稿を書く。十六時過大学。結局昨日の伊豆の#3藤井邸の会の参加者は百名を超えたそう。ひろしまハウスの最終図チエック。ひろしまハウスはゆっくり進んでいる。十八時過、尾島、中川両先生と会食。中川先生と私は余程しつかりしなくてはならぬな、これからは。建築学科の将来をアレコレ考えると。やらねばならぬ事が多過ぎて仲々辛いものがあるが、仕方ないだろう。

七月十五日

早朝室内原稿資料読み、書き始める。総じて今やっている事を磐石の礎として揺らがずに行きたい。竹の如くに少しばかりのしなりは見せても根迄動かす様な事があってはならない。

十時半大学。学部レクチャーもう正式には授業は終わっているが、話し足りぬ事があるのでやった。夏休みにもう一度やる。ノルマではないしレクチャーはこつちも気分がいいから、我ながらクオリティーも上がるのが自覚できる。レクチャーの取得は学生に話しながら、時に話している自分の中に新しい発見がある事だ。先日、中川武教授から言われた鈴木博之氏の中央公論、論文読む。

十六時西早稲田のコンバージョン計画ビルオーナー原さん、親娘来室。すぐにビルと一緒に見に行く。四階建ての二階と四階を学生宿舎にしてみたいとの事。これは比較的容易に実現できるだろうと直観した。十七時過研究室に戻る。室内原稿書き上げる。ライターとビールを飲んで帰る。

七月十六日

昼過フィンランド芸術工芸大のソタマ学長のところに預つてもらう事になった尾島研の女性がいさつに来る。二十八才の学生入学の女性だ。ソタマのところに行つたら真正面から生活道具のデザインに取り組むように忠言する。女性が一人ヘルシンキで学ぶのは大変だろうが、アジア系の学生は意外と多いから心細くないだろう。十五時スタジオG。J・グライターのクリティーク。学生の英語力が急速に上がっている。この人達はこのいう事は上手なのだ。デザインはチヨボチヨボで考える力は極めて幼児退嬰的でもある。十七時猪苗代鬼沼のオーナー友岡社長の息子来室。彼はプノンペンのレンガ積みツアーの参加者でもあり、春からズーツとアジアを巡っていたようだ。八月中旬から、インド、ネパール、チベットへ年内行くというから、そろそろヒッピー生活は止める潮時だぜと話した。ヒッピー止めて、親の仕事を手伝えと、流石に私も説教レクチャーが多くなった。マアしかし見処のある奴は厳しくしつけないと本当に恐いくらいに安易に崩壊するからな。夕食を共にして、二十一時過世田谷に戻る。妙高寺住職夫人来所。息子さんの会館イメージプランを渡される。仲々この仕事も一筋縄ではいかぬな。